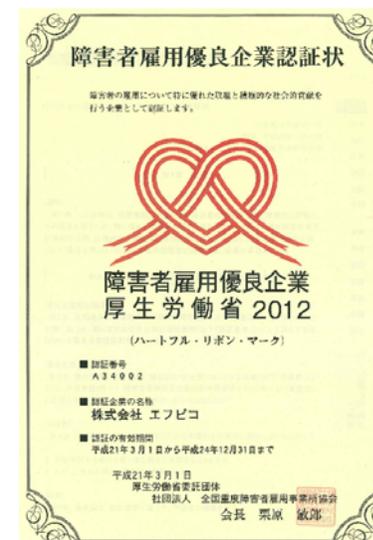


2009年3月期 決算説明会

株式会社エフピコ

2009年 5月13日



本説明会のプレゼンテーションおよび配布資料に掲載する情報に関しまして、細心の注意を払っております。将来の予測等に関する情報は、現時点で入手可能な情報にもとづき、当社が判断した予測であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。
そのため、様々な要因の変化により実際の業績は、記述している将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。

本説明会の配布資料に掲載する情報は、無断での引用や転載、複製は禁じられております。

| | | | | |
|----------------------------|----------|-------|-------|----|
| ◆ <u>実績報告</u> | 経理財務本部長 | 瀧崎 俊男 | | 3 |
| ◆ <u>中期経営計画の状況と今後の企業展開</u> | | | | |
| | 代表取締役社長 | 小松 安弘 | | 9 |
| ◆ <u>企業価値拡大へ向けて</u> | 代表取締役副社長 | 佐藤 守正 | | 24 |
| ◆ 業績予想 | | | | 42 |
| ◆ 添付資料 | | | | 46 |

実績報告 2009年3月期 累計

経理財務本部長
瀧崎 俊男

販売の状況(2009年3月期)



数量伸長率(枚数)

単位:百万円

| | 実績 | | 09/3月 | | 増減 | 前年比 | 数量伸長率 | 計画 | | |
|-----------|---------|-------|---------|-------|---------|--------|--------|---------|-------|--------|
| | 08/3月 | 百分比 | 09/3月 | 百分比 | | | | 09/3月 | 百分比 | 達成率 |
| ト レ ー 容 器 | 27,548 | 21.9 | 28,748 | 22.4 | + 1,199 | 104.4% | 102.8% | 29,070 | 22.3 | 98.9% |
| 弁 当 容 器 | 65,317 | 52.0 | 67,814 | 52.9 | + 2,496 | 103.8% | 100.5% | 69,770 | 53.5 | 97.2% |
| そ の 他 製 品 | 1,364 | 1.1 | 1,981 | 1.5 | + 617 | 145.2% | | 1,080 | 0.8 | 183.5% |
| 【 製 品 】 | 94,231 | 75.1 | 98,544 | 76.8 | + 4,313 | 104.6% | 101.5% | 99,920 | 76.7 | 98.6% |
| 包 装 資 材 | 19,341 | 15.4 | 17,874 | 13.9 | △ 1,466 | 92.4% | | 17,900 | 13.7 | 99.9% |
| そ の 他 商 品 | 11,940 | 9.5 | 11,824 | 9.2 | △ 116 | 99.0% | | 12,513 | 9.6 | 94.5% |
| 【 商 品 】 | 31,282 | 24.9 | 29,699 | 23.2 | △ 1,582 | 94.9% | | 30,413 | 23.3 | 97.7% |
| 【 売 上 高 】 | 125,513 | 100.0 | 128,244 | 100.0 | + 2,730 | 102.2% | | 130,333 | 100.0 | 98.4% |

※計画は、2009年2月9日発表の業績予想であります。

■製品 出荷枚数 前年比101.5%伸長

- 製品価格: '08/8より値上げ実施。Q4からの原材料価格の値下がりにより、'09/3より値下げ実施。
- トレー容器: 超軽量化ロースタックトレーのFLBシリーズが好調
- 弁当容器: 個食化の進行により、弁当惣菜容器が好調
PET素材製品の新製品の引き合いも順調

■商品

- 包装資材等の推奨商品への絞込みと不採算取引の見直しを実施。
- その他商品は、販売用美術骨董品の売上1,333百万円を含む。

ご参考: 販売用美術骨董品を除く。

| | | | | | | |
|-----------|---------|---------|---------|--------|---------|-------|
| そ の 他 商 品 | 11,940 | 10,491 | △ 1,449 | 87.9% | 11,180 | 93.8% |
| 【 商 品 】 | 31,282 | 28,366 | △ 2,916 | 90.7% | 29,080 | 97.5% |
| 【 売 上 高 】 | 125,513 | 126,910 | + 1,397 | 101.1% | 129,000 | 98.4% |



決算概要(2009年3月期)



単位:百万円

| | 実績 | | 09/3月 | | 増減 | 前年比 | 計画 | | |
|---------|---------|-------|---------|-------|---------|--------|---------|-------|--------|
| | 08/3月 | 百分比 | 09/3月 | 百分比 | | | 09/3月 | 百分比 | 達成率 |
| 【純売上高】 | 125,513 | 100.0 | 128,244 | 100.0 | + 2,730 | 102.2% | 130,333 | 100.0 | 98.4% |
| 製品売上高 | 94,231 | 75.1 | 98,544 | 76.8 | + 4,313 | 104.6% | 99,920 | 76.7 | 98.6% |
| 商品売上高 | 31,282 | 24.9 | 29,699 | 23.2 | △ 1,582 | 94.9% | 30,413 | 23.3 | 97.7% |
| 【営業利益】 | 5,987 | 4.8 | 9,190 | 7.2 | + 3,203 | 153.5% | 8,450 | 6.5 | 108.8% |
| 【経常利益】 | 6,453 | 5.1 | 9,298 | 7.3 | + 2,845 | 144.1% | 8,800 | 6.8 | 105.7% |
| 【税引前利益】 | 6,581 | 5.2 | 8,832 | 6.9 | + 2,250 | 134.2% | 8,486 | 6.5 | 104.1% |
| 【当期利益】 | 4,157 | 3.3 | 5,302 | 4.1 | + 1,145 | 127.5% | 5,100 | 3.9 | 104.0% |

※計画は、2009年2月9日発表の業績予想であります。

- 合理化: あらゆる部門で生産性向上と、社内合理化によるコスト削減。アイテム数の大幅な絞込み。
超ロースタックトレイをはじめとした全製品の軽量化および素材変更による原材料費の削減。
- 原料面: 主力製品の原材料および副資材価格の大幅な値上がり。一転Q4から原材料価格の値下がり。
- 販売面: 製品価格について '08/8より値上げ。Q4からの原材料価格の値下がりによる原材料費と製品価格との乖離に、
'09/3より値下げを実施。商品提案会「エフピコ・ミニフェア」を全国で開催。
- 生産面: 生産性および品質の向上に取り組み、需要拡大に対応した生産能力の拡大と生産拠点の最適化。
- 物流面: 需要に即した供給体制の構築。在庫水準の適正化、横持ち・保管にかかわるコストの低減。

2009年3月期 経常利益 増減要因



設備投資および研究開発費の状況(2009年3月期)



単位:百万円

| | 実績 | | 増減 | 前年比 | 計画 | |
|-----------|--------|-------|---------|--------|-------|--------|
| | 08/3月 | 09/3月 | | | 09/3月 | 計画比 |
| 有形固定資産 | 10,655 | 8,249 | △ 2,406 | 77.4% | 9,300 | 88.7% |
| 内、土地 | 1,150 | 1,485 | 335 | | 1,400 | |
| 無形固定資産 | 254 | 841 | 587 | 331.1% | 550 | 152.9% |
| 減価償却費 | 4,742 | 8,467 | 3,725 | 178.6% | 5,000 | |
| (旧基準減価償却費 | | 4,785 |) | | | |
| 研究開発費 | 913 | 965 | 52 | 105.7% | 950 | 101.6% |

主な設備投資

| | | |
|---------------------|----------|--------|
| ◆福山新倉庫および福山容器回収選別工場 | 1,574百万円 | ※土地を含む |
| ◆透明容器設備の強化 | 694百万円 | |
| ◆金型 | 617百万円 | |
| ◆北海道配送センター | 1,041百万円 | |
| ◆透明回収選別工場 等 | 882百万円 | |
| ◆IT投資 | 784百万円 | |

キャッシュ・フローの状況(2009年3月期)



単位:百万円

| | 実績 | |
|---------------------|-----------------------------|---------|
| | 08/3月 | 09/3月 |
| 営業活動による C/F | 9,105 | 14,568 |
| 投資活動による C/F | △ 12,007 | △ 5,725 |
| フリー・キャッシュフロー | △ 2,902 | 8,843 |
| 財務活動による C/F | 2,605 | △ 960 |
| 現金及び現金同等物の増減額 | △ 297 | 7,883 ※ |
| 現金及び現金同等物の 現期末残高 | 8,225 | 16,108 |
| 自己資本比率 | 43.3% | 39.0% |
| | リース会計基準の変更によるリース債務127億円を除く⇒ | 43.0% |
| | 臨時支出対策70億円を除く⇒ | 45.5% |

※現金及び現金同等物の増加要因

> 金融情勢不安への対応
> 臨時支出対策



70億円 調達

■ 営業活動によるキャッシュフロー

| | | |
|--------------|---------|-----|
| 税金等調整前四半期純利益 | 8,832 | 百万円 |
| 減価償却費 | 8,467 | |
| 売上債権の増加 | △ 1,545 | |
| たな卸資産の減少 | 1,825 | |
| 仕入債務の減少 | △ 3,734 | |

■ 投資活動によるキャッシュフロー

| | |
|-----------|---------|
| 有形固定資産の取得 | △ 7,833 |
| 無形固定資産の取得 | △ 720 |
| 長期貸付金の減少 | 2,984 |

■ 財務活動によるキャッシュフロー

| | | |
|----------|---------|-----|
| 借入金の純増加額 | 5,035 | 百万円 |
| 自己株式の取得 | △ 737 | |
| リース債務の返済 | △ 3,606 | |
| 配当金の支払額 | △ 1,322 | |

中期経営計画の状況と今後の企業展開

代表取締役社長
小松 安弘

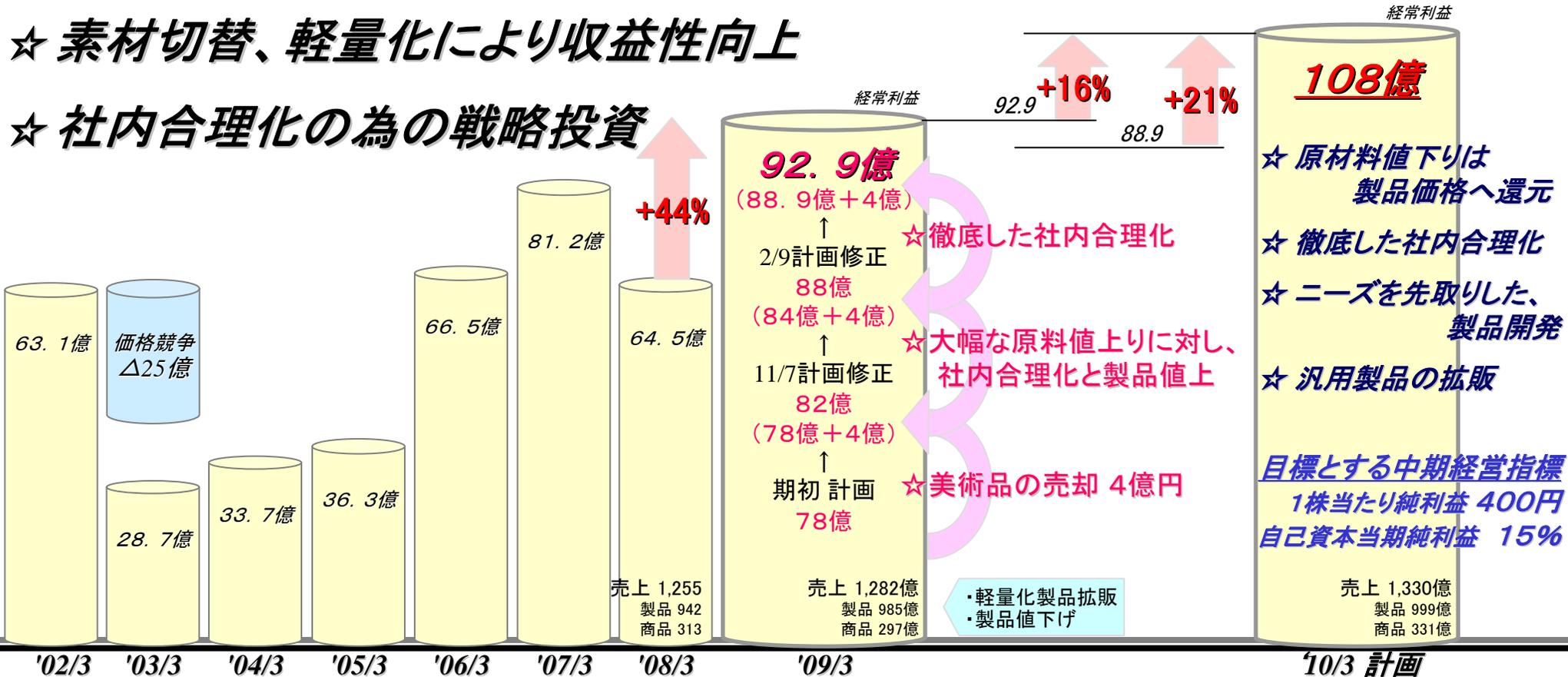
中期経営計画



☆ 急激な原材料値上りに対し、徹底した社内合理化と製品値上の実施

☆ 素材切替、軽量化により収益性向上

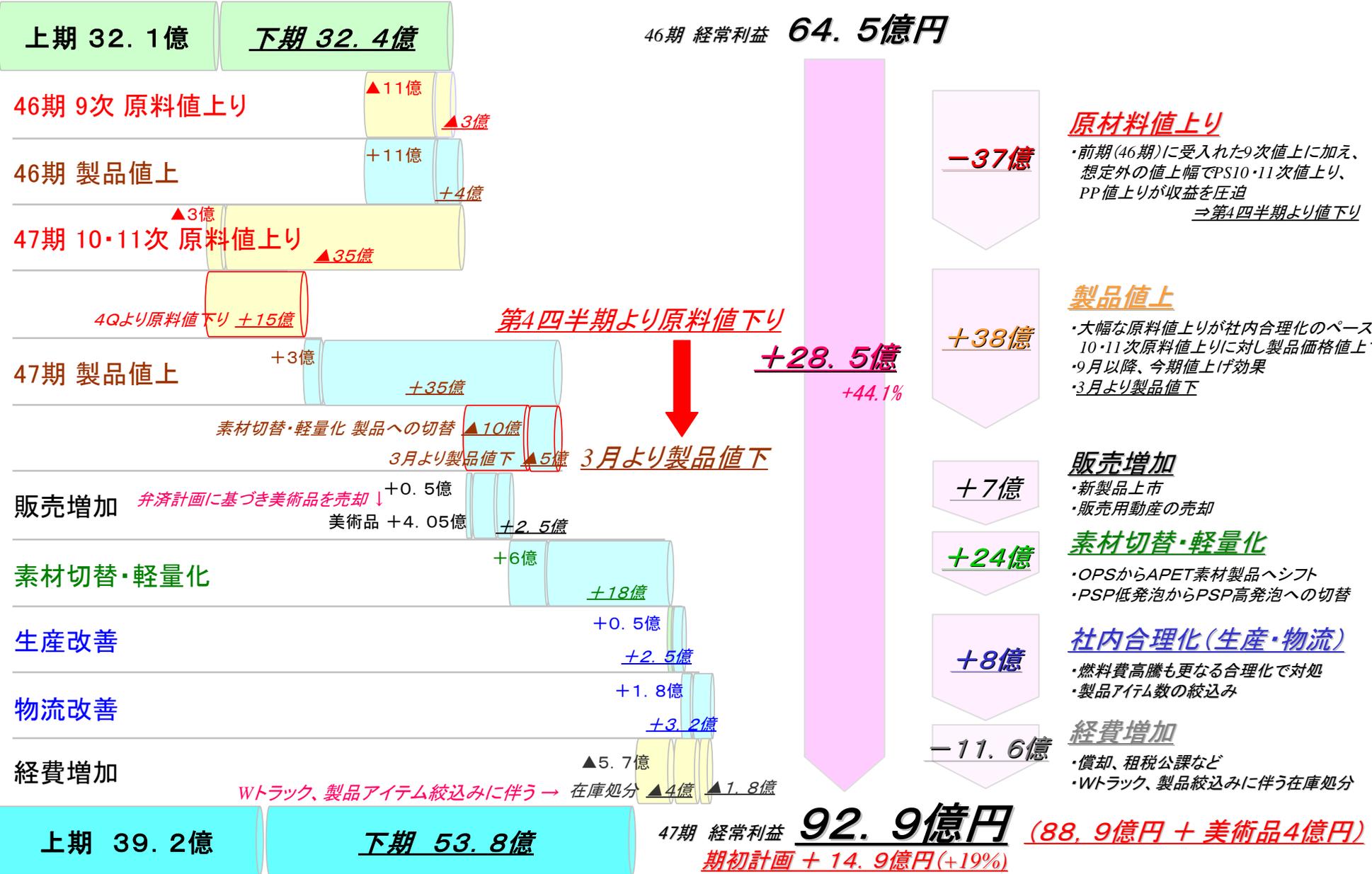
☆ 社内合理化の為の戦略投資



- 素材メーカー統合
- 1次原料値上
- 2,3,4次原料値上
- 製品値上
- 社内SCM稼働
- 非発泡⇒発泡
- 薄肉・軽量化
- 東日本Hub-C
- 山形工場
- 業務改革プロジェクト
- 9次原料値上
- 6,7,8次原料値上
- APET化
- 薄肉・軽量化
- 高発泡化
- 関東八千代C
- 下館第二工場
- 中部第二工場
- 原料値下り
- 10,11次原料値上
- 製品値上
- 第一次製品値下げ
- 透明容器回収 全国展開
- 透明回収・発泡選別工場 全国展開
- 新北海道HC
- 九州第二工場
- 第二次製品値下げ
- 西関東DC

2009年3月期 経常利益 増減要因

ご参考



原材料値上り

・前期(46期)に受入れた9次値上に加え、想定外の値上幅でPS10・11次値上り、PP値上りが収益を圧迫
⇒第4四半期より値下り

製品値上

・大幅な原料値上りが社内合理化のペースを上回り、10・11次原料値上りに対し製品価格値上で対処
・9月以降、今期値上げ効果
・3月より製品値下

販売増加

・新製品上市
・販売用動産の売却

素材切替・軽量化

・OPSからAPET素材製品へシフト
・PSP低発泡からPSP高発泡への切替

社内合理化(生産・物流)

・燃料費高騰も更なる合理化で対処
・製品アイテム数の絞込み

経費増加

・償却、租税公課など
・Wトラック、製品絞込みに伴う在庫処分

2010年3月期 経常利益 増減要因



47期 経常利益 92.9億

47期 経常利益 **92.9億円**
(88.9億円 + 美術品4億円)

47期 原料値上り 影響

▲25億

原料値下り

+78億

原料値下り +53億

47期 製品値上 影響

+25億

第一次 製品値下げ

▲48億

製品値下げ ▲53億

第二次 製品値下げ + シェア拡大への
価格施策

▲30億

原料値下りは
製品価格へ還元

販売増・Mix改善

+4億

シェア拡大 +4億

素材切替・軽量化

+10億

・汎用品マーケットでシェア拡大
・素材別 製品戦略により利益改善

素材切替・軽量化 +10億

生産改善

+4.5億

徹底した社内合理化の推進

社内合理化 +10億

物流改善

+5.5億

・製品アイテム数の絞込み
7,211アイテム → 6,200アイテム → 5,000アイテム

経費増加

▲9億

・下期 エプピコフェア開催

経費増加 ▲9億

48期 経常利益 108億円

47期比 +15億、+16%
(美術品除く47期比 +19億、+21%) 48期 経常利益 **108億円**

目標とする中期経営指標 1株当たり純利益 400円 自己資本当期純利益 15%



2010年3月期 経常利益 増減要因

ご参考



上期 39.2億

下期 53.8億

47期 原料値上り 影響

▲25億

原料値下り 上期+19億
下期+34億

原料値下り

+44億

+34億

47期 製品値上 影響

+25億

原料値下りは
製品価格へ還元

第一次 製品値下げ

▲28億

▲20億

上期▲17億

第二次 製品値下げ + シェア拡大への
価格施策

▲14億

▲16億

製品値下げ 下期▲36億

販売増・Mix改善

+2億

+2億

・汎用品マーケットでシェア拡大

シェア拡大 上期+2億

下期+2億

素材切替・軽量化

・素材別 製品戦略により利益改善

+8億

+2億

素材切替・軽量化 上期+8億

下期+2億

生産改善

+2億

+2.5億

社内合理化 上期+4.5億

下期+5.5億

徹底した社内合理化の推進

物流改善

+2.5億

+3億

・製品アイテム数の絞込み
7,000アイテム → 6,200アイテム → 5,000アイテム

経費増加

▲3.7億

▲5.3億

下期 エピコフェア開催

経費増加 上期▲3.7億

下期▲5.3億

上期 52億

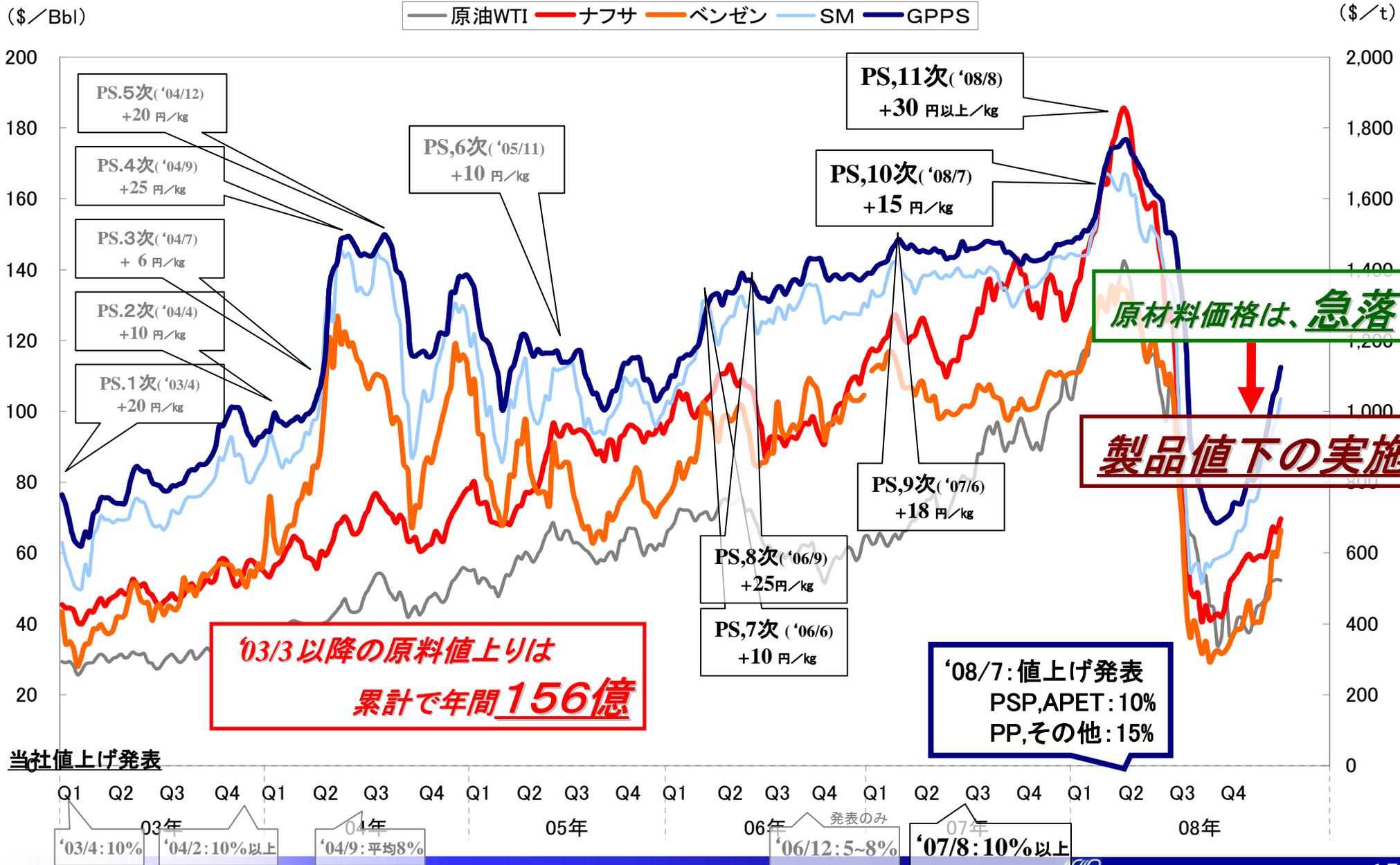
下期 56億

47期上期比+12.8億、+32.7%

47期下期比+2.2億、+4.1%



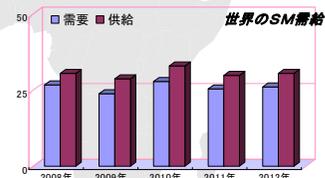
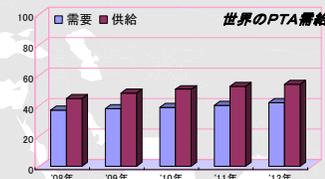
原油及び原料価格の動向～レジンメーカーの値上げ打出し状況～



☆原材料価格

- 47期第3四半期にピークを迎え、第4四半期から急落
- 内外需給バランスは、国内PSメーカー統合後も供給過剰

トップユーザとして
グローバルな資材調達で
優位性発揮



☆製品価格

- 原料値下りは製品価格へ還元
 - ✓ 平成21年3月より第一次値下を実施、
 - ✓ 第二次値下は、シェア拡大への価格施策と併せて計画

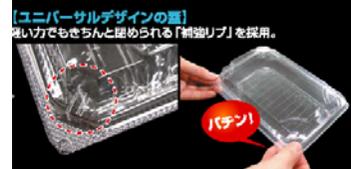
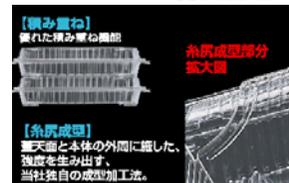
① 汎用品マーケットでのシェア拡大

☆ 超軽量ロースタックトレイ FLB、エコFLB

☆ 嵌合フードパック AP-SA、OPS-SA、PP-SA

☆ 透明トレイ AP-FC

素材、生産、物流に裏打ちされた価格競争力
+
品質、機能での優位性



FLB軽量化

エコトレイも16年間で30%超の軽量化
ラミネート技術を活用して、現在のFLBシリーズへと進化させてきました。

| | | |
|-------|-------------|-------|
| 1992年 | RA・LAシリーズ | 5.00g |
| 2000年 | RA・LSシリーズ | 4.50g |
| 2003年 | エコFLSシリーズ | 4.34g |
| 2007年 | エコFLBシリーズ | 3.75g |
| 2008年 | エコFLB新シリーズ | 3.52g |
| | エコFLB新々シリーズ | 3.41g |



② 素材シフト 及び 軽量化

☆ 透明容器の素材シフト OPS素材 ⇒ APET素材、PP素材

素材価格差、生産プロセスでの優位性

☆ 発泡容器のロースタック・軽量化 PSP低発泡 ⇒ PSP高発泡

両面ラミ+両面真空成型により、10%～最大40%超の軽量化

☆ 使用シーンに適合した素材特性を生かした容器開発

耐熱温度帯、耐酸性、耐油性、透明性、ガスバリア、漏れにくい

③ 高付加価値 及び 機能 による マーケット拡大

☆ 新折箱タイプ容器

☆ APET素材による漏れにくい容器

☆ 嵌合フードパック

☆ PP素材による容器・蓋

☆ 新デザイン容器

☆ 耐熱容器



新型折容器



磯舟



漏れにくい容器

APダイア



AP-2P



耐熱温度約110℃のPP透明嵌合フードパック

ユニバーサルデザインの取組

エフピコは「食品トレー包装のユニバーサルデザイン」を推進し、使い手発想の製品をご提供してまいります。

「蓋の開封」は、直感的に理解できて少ない力で開けられるデザインを導入。

【外嵌合の開け方】
蓋のあけ口部分が一目で解り少ない力で開封できるようにしました。

導入事例 HS-610
導入事例 彩園シリーズ

【内嵌合の開け方】
蓋のつまむ部分を大きくしました。

導入事例 FTデリカシリーズ
導入事例 APデリカシリーズ

④ アイテムの集約と製品ラインナップの見直し

主要カテゴリ別にマーケット分析 ⇒ 品目の絞り込みと新製品投入により
 // にメーカー分析 ⇒ マーケットニーズにより即した製品ラインナップへ

8,121アイテム('07年9月末) ⇒ 7,211アイテム('08年3月末) ⇒ **6,200アイテム('09年3月末)**当初計画6,000アイテム

2010年3月末 **5,000アイテムへの絞り込みを新たな計画に**

新たなステージへ 企業規模 拡大



包装資材業界

簡易包装容器



インスタア



アウトパック

日配品
食品加工

農産品
産地包装



消耗品・包装機器



得意分野での
更なる優位性
の確立

新規分野の攻略

業務提携・M&A

問屋コストダウン

問屋SCM拡大

物流ネットワーク & SCM

製品売上げ

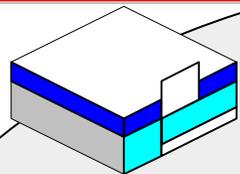
商品売上げ

市場規模
2兆円

- ☆ 汎用製品でのシェア拡大
- ☆ 新規マーケットの拡大

☆ 調整から拡大へ

小売業界が抱える経営課題



販売

- ・販売不振
- ・販売機会損失
- ・販売ロス
- ・消費者ニーズ

環境

- ・CO2削減
- ・包装資材削減
- ・循環型社会
- ・廃棄物ゼロ

オペレーション

- ・人件費高騰
- ・作業効率改善
- ・資材発注・検品業務

物流・資材

- ・包装資材コスト
- ・流通コスト

食の安心・安全

衛生管理

トレーサビリティ強化

製品へのブランド刻印

製造者責任

共同配送、B to B

得意先配送効率化

ロースタック化によるケースサイズ縮小

全国規模での製品の安定供給

物流力

機能製品開発

製品力

新素材製品開発

全国の販売情報提供

汎用製品の販売強化

高品質化

製品の軽量化

エコトレ

エフピコ方式リサイクル(トレ→トレ)

透明容器回収の全国展開

CO2削減提案

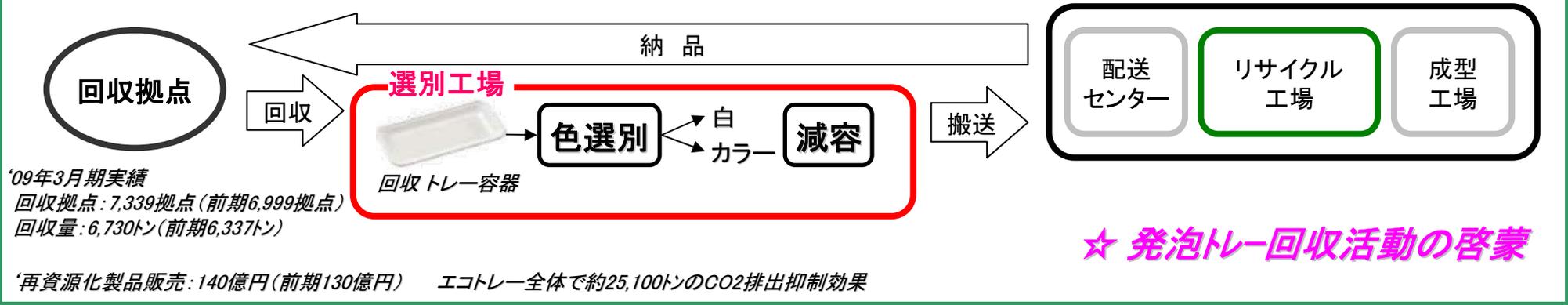
環境

小売業界の課題解決を強力にサポート

トレー・リサイクルと透明容器回収



発泡トレー・リサイクルの進化



透明容器の自主的な回収の全国展開



「20年前の消費者運動」を踏まえ、**最大のリスクに備える**



社会貢献と企業活動



企業と地域との結びつきを強め、障がい者雇用の場を全国に展開

特例子会社 ●

- '86/1 (株) ダックス PSP容器成型
- '95/4 (株) ダックス四国 OPS容器成型
- '06/8 (株) ダックス佐賀 明太子容器へのウレタン貼付

弊社障害者雇用率 = **8.48%** (法定雇用率 = 1.8%)

障がい者雇用者数 = **97名(実数64名)** '09年3月末

(ハートフルリボン・マーク)



障害者雇用優良企業
厚生労働省'2012



就労継続支援A型 ●

- '06/10 広島愛パック (株)
- '07/3 エフピコ愛パック (株) 福山工場
- '07/8 " 佐賀工場
- '07/9 " 岐阜工場
- '07/9 " 茨城工場
- '07/10 " 山形工場
- '08/11 " 北海道工場

障がい者雇用者数 = **183名(実数99名)** '09年3月末

折箱タイプ容器の組立工場



発泡トレー・透明容器 選別工場 設立★

- '08/8 関東選別センター 就労継続支援A型 透明 2ライン
- '08/10 西宮選別センター 就労継続支援A型 透明 1ライン PSP 1ライン
- '08/10 中部選別センター 就労継続支援A型 透明 1ライン
- '08/12 福山選別センター 就労継続支援A型 透明 4ライン PSP 2ライン
- '08/12 金沢選別センター 地元社会福祉法人 PSP 2ライン
- '09/1 九州選別センター 就労継続支援A型 透明 1ライン

障がい者雇用者数 = **111名(実数60名)** '09年3月末

グループ全体で409名(実数239名)の障がい者の方々が就労

経済的・環境的・社会的側面での、企業価値の拡大を目指す

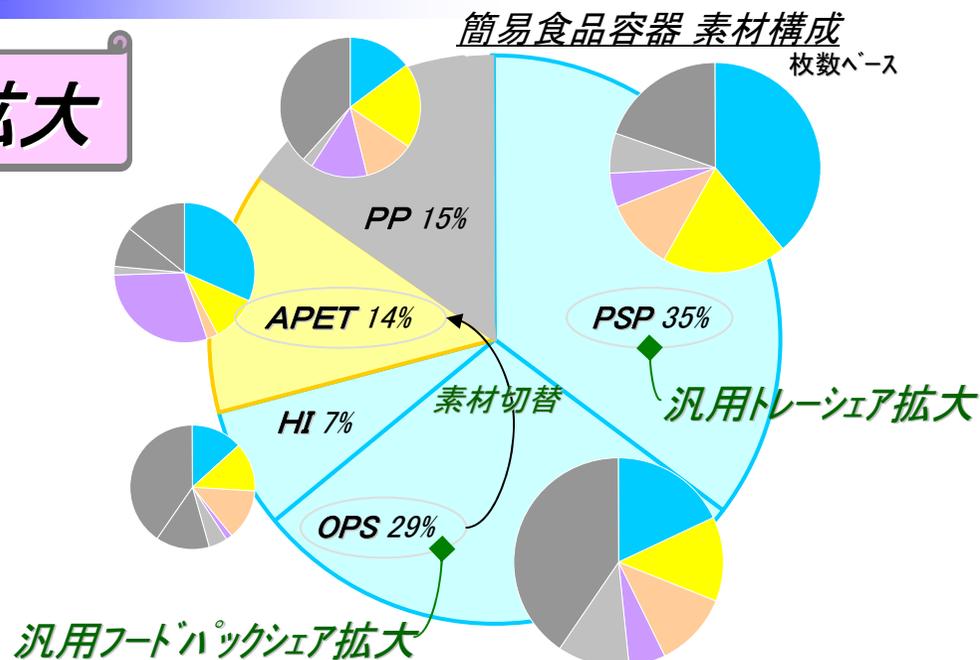
※ 障がい者雇用者数は、重度障がい者を重複加算 ※



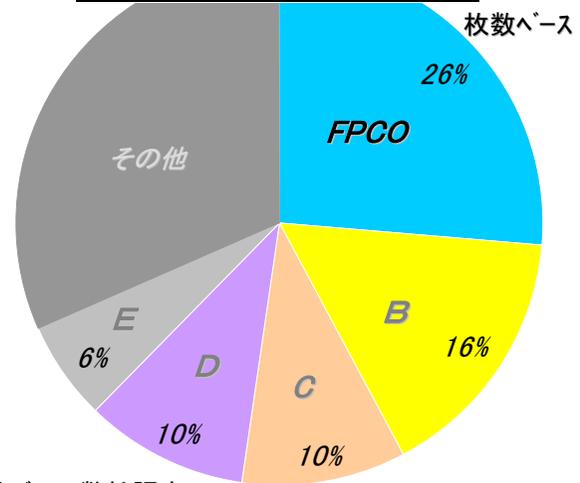
国内食品容器業界の状況

業界内での優位性を高め収益拡大

- ✓ リサイクル・CO2削減
- ✓ 食の安全・安心
- ✓ 物流ネットワーク
- ✓ サプライチェーンマネジメント
- ✓ 顧客への情報提供
- ✓ 製品開発力
- ✓ 汎用製品の優位性



簡易食品容器 企業シェア



枚数ベース: 弊社調査
素材別重量情報を弊社素材別単位重量で換算

各社、厳しい経営状態が続くも、
原材料値下りにより、一服感？

| 単位: 億円 | 国内売上高 一部推定 | | 経常利益 一部推定 | | 主要製品 |
|---------|---------------|-------|--------------|-----|------|
| | 前期(前々期) | 今期 | 前期(前々期) | 今期 | |
| エフピコ | 1,282 | 1,330 | 93 | 108 | 総合素材 |
| B | 690 | 654 | △36 | 10 | 総合素材 |
| C | 574 | — | 不明 | — | 弁当容器 |
| D | 423 | — | 4 | — | 透明容器 |
| E | 168 | — | 若干の赤字 | — | 透明容器 |
| その他約95社 | — | — | — | — | 非発泡 |

企業価値拡大へ向けて 中期経営計画の進捗状況

代表取締役副社長
佐藤 守正

度重なる原材料価格の高騰と急激な下落



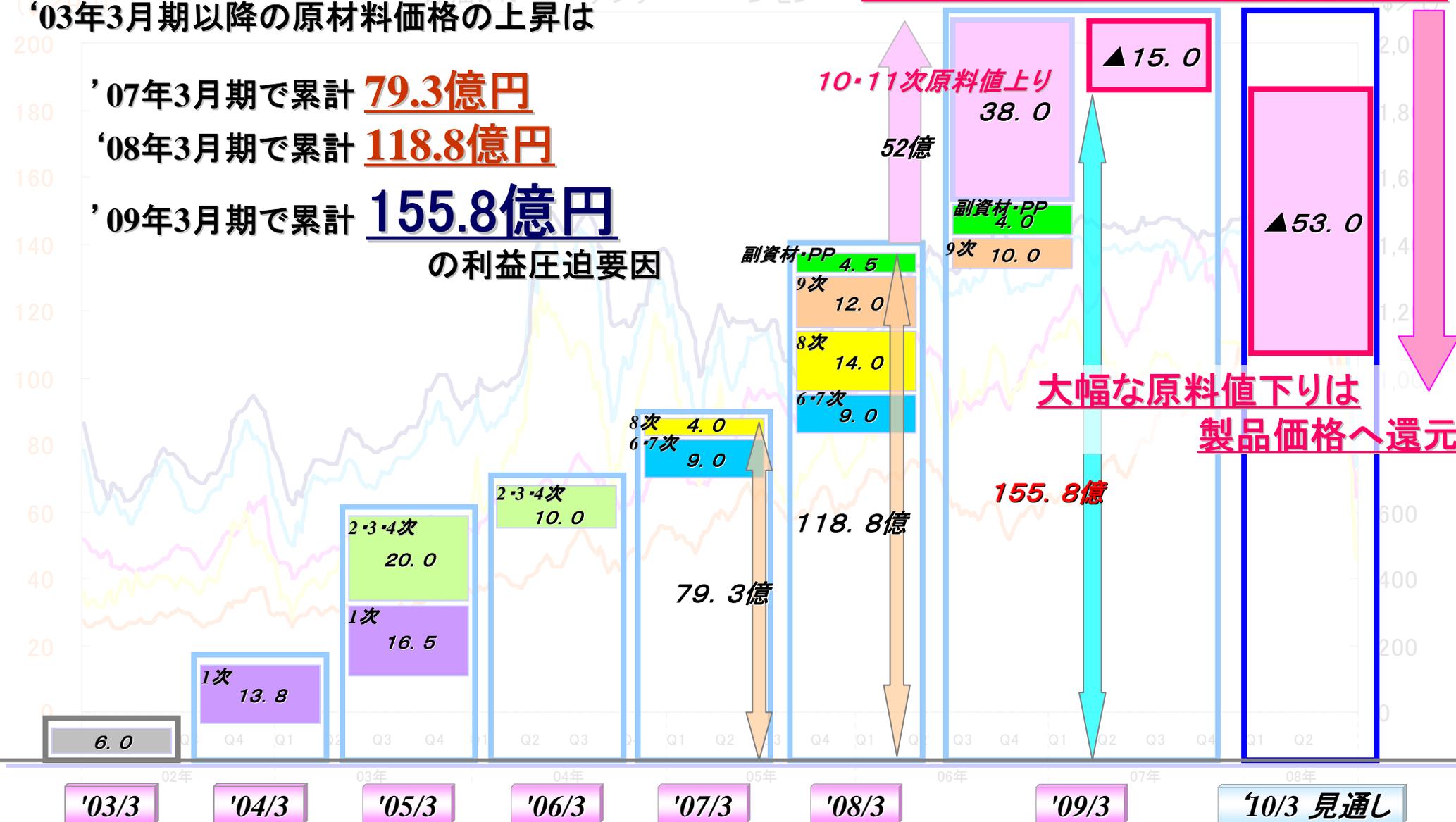
原材料価格上昇の影響

‘03年3月期以降の原材料価格の上昇は

- ’07年3月期で累計 **79.3億円**
- ’08年3月期で累計 **118.8億円**
- ’09年3月期で累計 **155.8億円**

の利益圧迫要因

‘09/3期 4Qからの大幅な原料値下り



社内合理化施策

薄肉・軽量化、素材切替

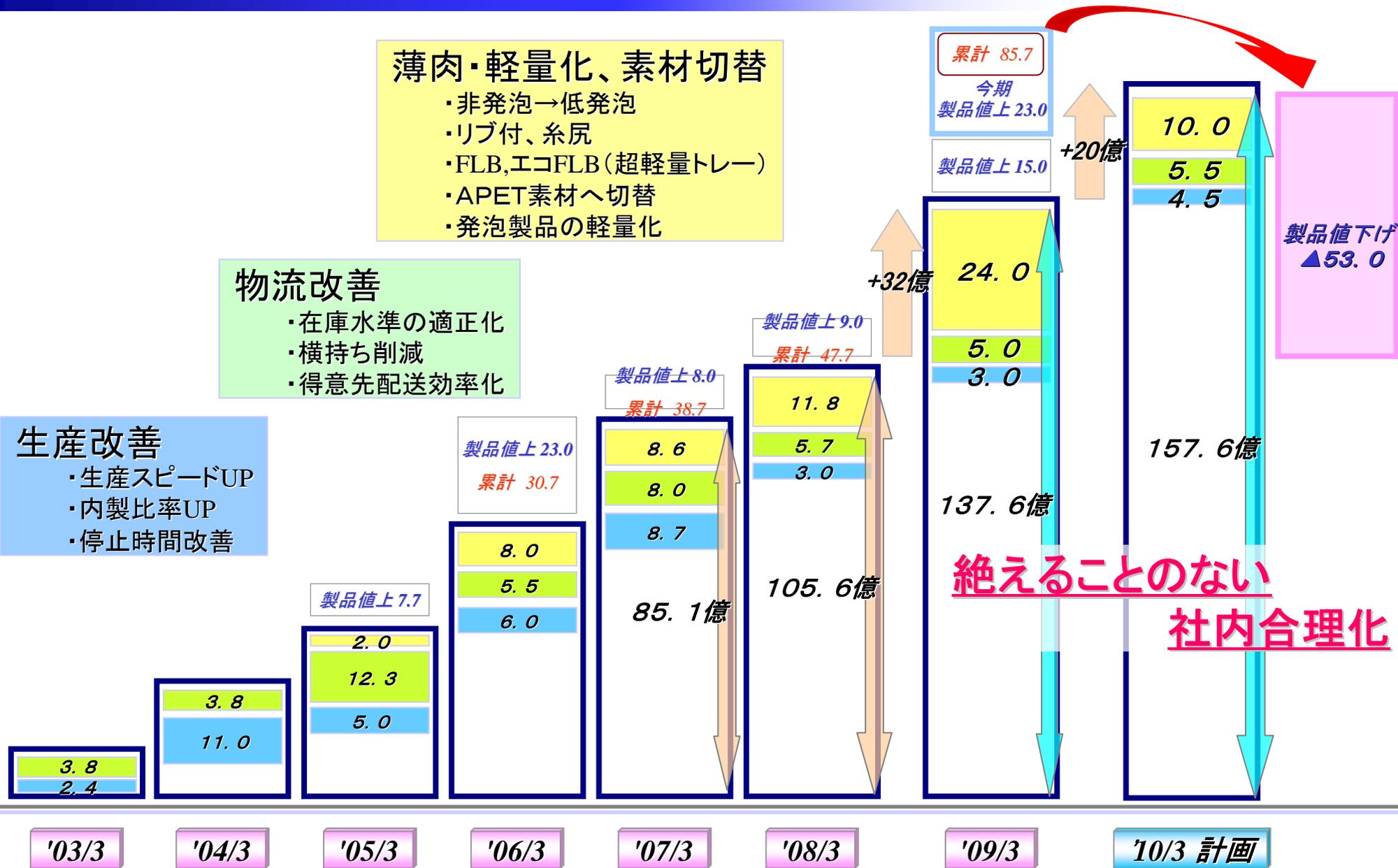
- ・非発泡→低発泡
- ・リブ付、糸尻
- ・FLB,エコFLB(超軽量トレー)
- ・APET素材へ切替
- ・発泡製品の軽量化

物流改善

- ・在庫水準の適正化
- ・横持ち削減
- ・得意先配送効率化

生産改善

- ・生産スピードUP
- ・内製比率UP
- ・停止時間改善



- ソリッドから低発泡へ **薄肉・軽量化**
- 低発泡から高発泡へ
- 両面真空成型技術＋ラミネート
- PSからAPETへ
- リブ付・糸尻による薄肉化

- 受注業務の効率化 **営業**
- 提案営業の効率化
- 製品アイテムの絞込み
- 得意先需要の把握

強固な部門連携

- 生産スピードUP **生産**
- 型替え・段取り時間の短縮
- 生産品質の向上
- 素材開発

- 在庫回転率UP **物流**
- 拠点間横持ちの削減
- 得意先配送効率UP・路線便削減
- 配送品質の向上
- ロースタック化によるケースサイズ縮小

生産性アップと品質向上

09年3月期
稼働率

| | 上期 | 下期 |
|------|--------|--------|
| PSP | + 5.5% | + 5.6% |
| OPS | + 4.7% | + 6.0% |
| APET | + 0.3% | + 0.9% |
| 全体 | + 4.0% | + 4.1% |

- 1 段取り時間の削減
- 2 トラブル調整停止時間の削減

見なし効果金額

昨年対比 573百万円

09年3月期
時間当リショット数

| | 上期 | 下期 |
|------|--------|--------|
| PSP | + 4.8% | + 4.4% |
| OPS | + 1.2% | + 4.5% |
| APET | + 7.8% | + 5.1% |
| 全体 | + 4.0% | + 5.1% |

- 1 製品別ベストサイクルへの挑戦
- 2 設備更新・改造を計画的に実施

昨年対比 560百万円

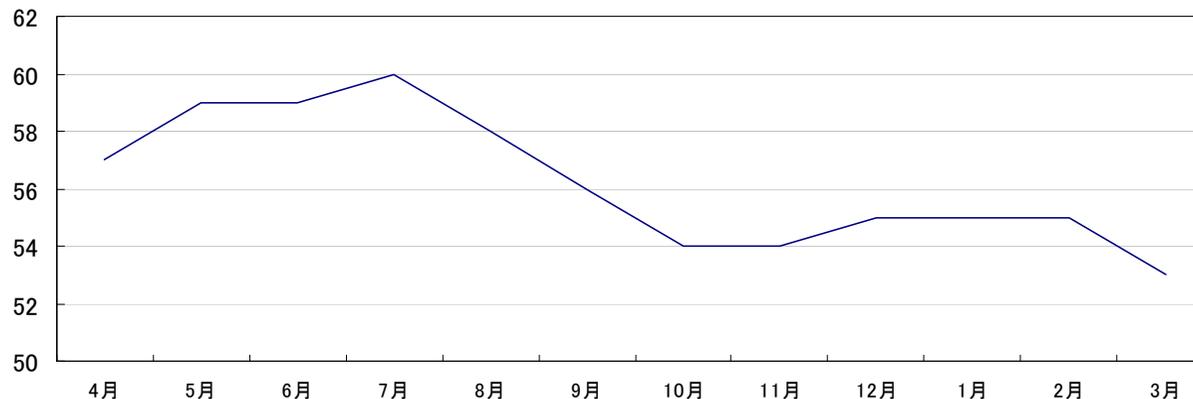
09年3月期
製品効率

| | 上期 | 下期 |
|------|--------|--------|
| PSP | + 0.1% | + 0.5% |
| OPS | + 0.2% | + 0.5% |
| APET | - 0.1% | + 0.2% |
| 全体 | + 0.3% | + 0.5% |

- 1 トラブル調整停止低減によるロス削減
- 2 ミニ機スタート時ロスの削減

昨年対比 117百万円

09年3月期
クレーム発生率 ppb (自社)



技能塾

「人づくりのための 教育プログラム」

- ★ 優秀な技能の継承
- ★ 能力の開発・向上

育成期間

- 2週間 座学 + ライン研修
- ~2ヶ月 自社工場にて自主検証
- ~1週間 実技テスト

| | |
|-----------|-------|
| ‘09年3月期 | 49名卒業 |
| ‘10年3月期上期 | 26名入塾 |
| 下期 | 30名予定 |

モノづくり革新活動

「速さと正確さ」の追求

- ★ 5Sをベースに
ムダロスの見える化
- ★ 問題意識の共有
→ 作業標準の見直し・
改定による高位標準化

発表会

半期に一度の活動報告を継続

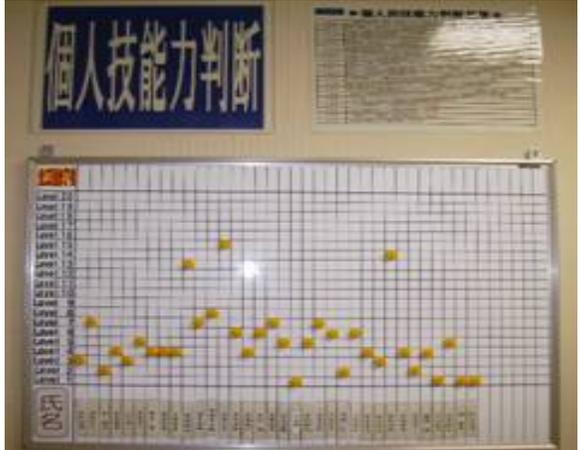
知恵 = 知識 × 体験回数

5S

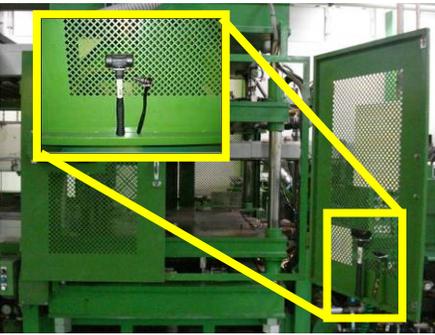
| 改善前 | 改善後 |
|--|---|
|  |  |

色区分表示・通路確保

個人技能の見える化



3定

| 改善前 | 改善後 |
|---|--|
|  |  |

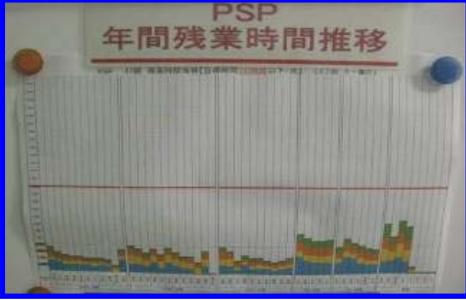
工具の手許化

残業時間の見える化



毎日退社時に記入

月別個人残業実績



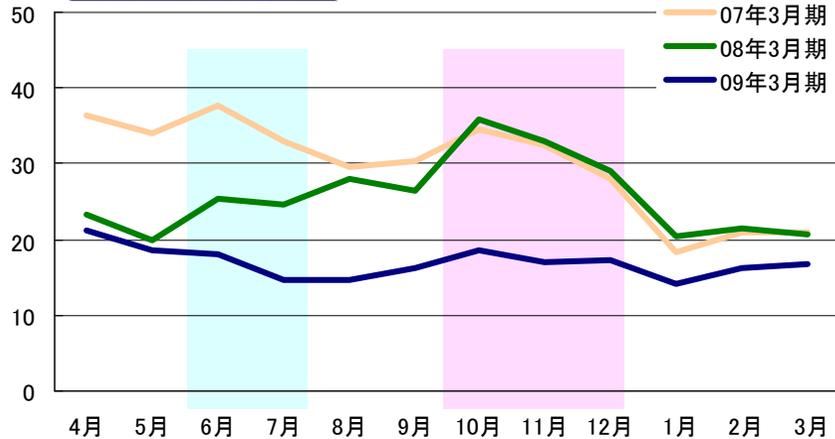
作業標準化と生産体制の平準化により 変動コストの抑制

☆ 計画生産の徹底

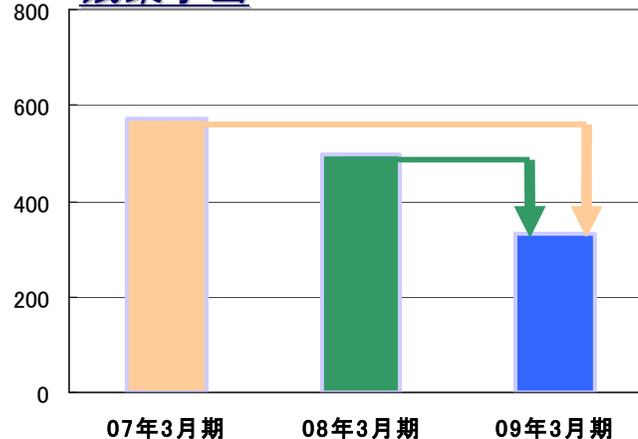
☆ 需要の季節変動を考慮した

生産体制の平準化

残業時間 推移



残業手当



'07年3月期比 ▲41.9%
'08年3月期比 ▲33.2%
へ大幅削減

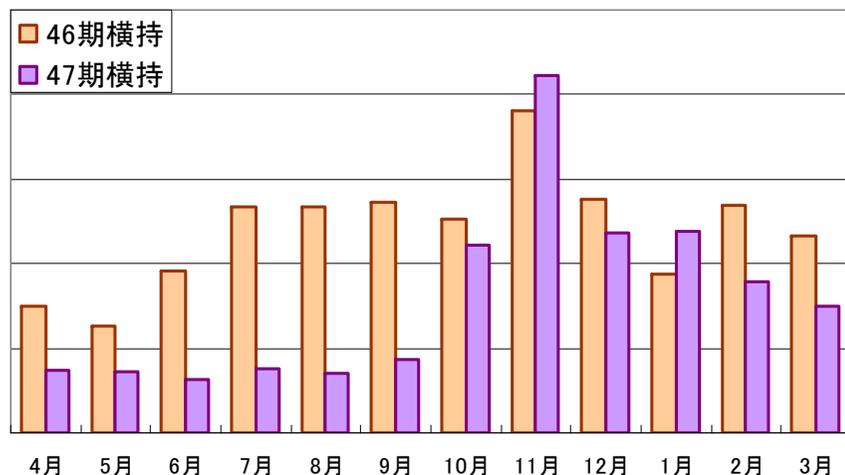
'10年3月期は、'09年4月の生産体制で、
季節変動 及び 販売増加に対応

資産効率を高める

☆ 計画生産の精度向上により消費地生産比率の向上

☆ 需要と供給のバランス改善により路線出荷・横持コスト削減

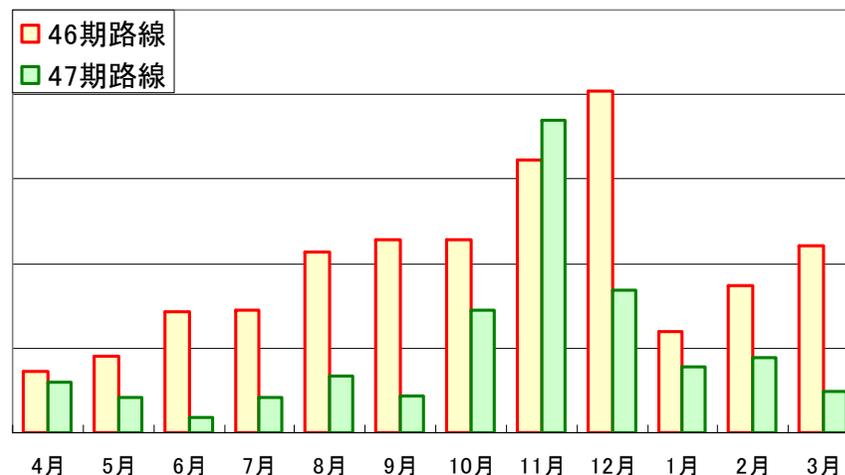
汎用トレー横持ち費用 推移



汎用トレー横持ち

昨年対比 ▲34.3% へ大幅削減

汎用トレー路線出荷費用 推移



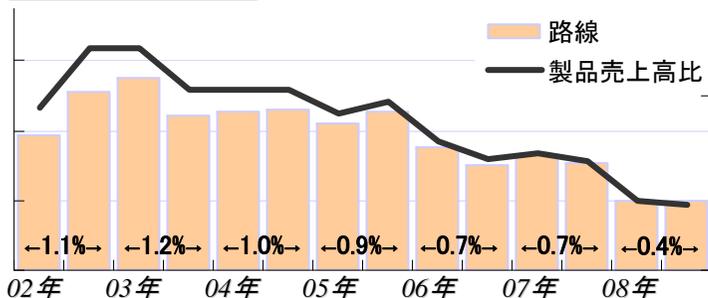
汎用トレー路線出荷

昨年対比 ▲50.6% へ大幅削減

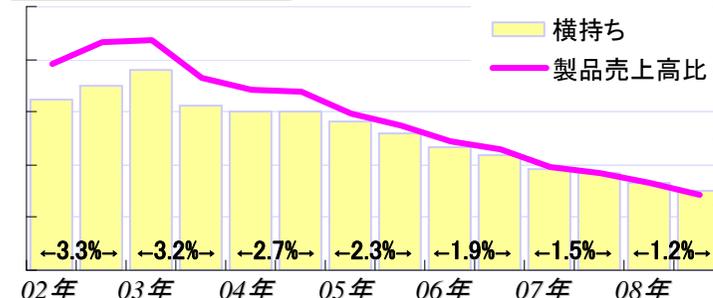
物流 ①

- ☆ 生産/保管/横持/金型移動等のトータルコストコントロールにより
在庫水準の適正化、及び横持ちコストを削減
- ☆ 製品配送・製品回収のルート見直しにより得意先配送運賃削減
- ☆ 金型輸送ラック導入による積載効率の改善

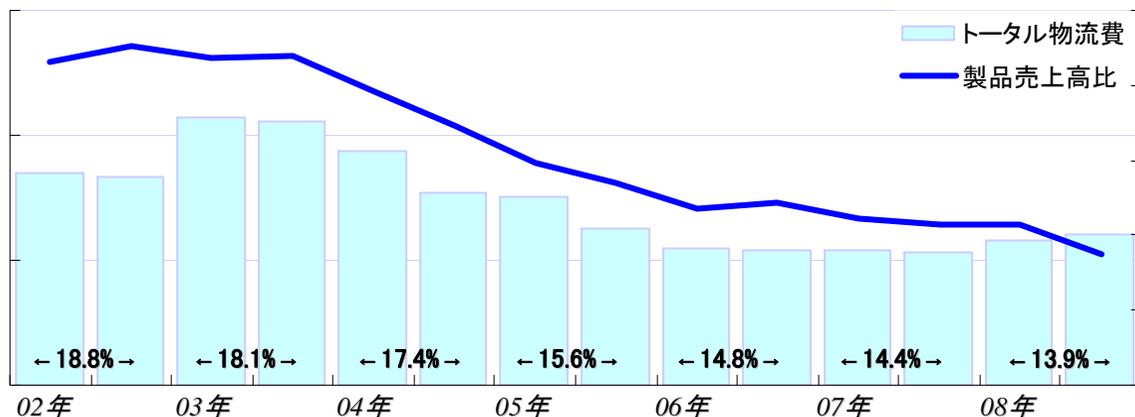
路線コスト 推移



横持ちコスト 推移



トータル物流費 推移



'08年3月期

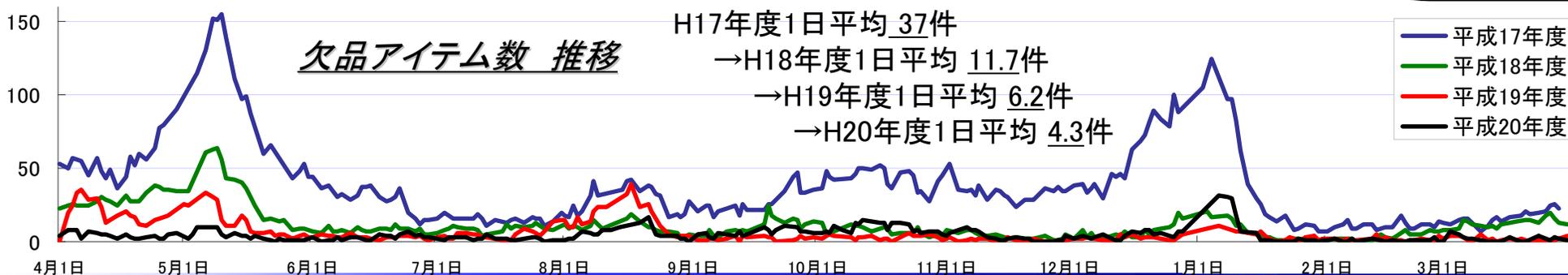
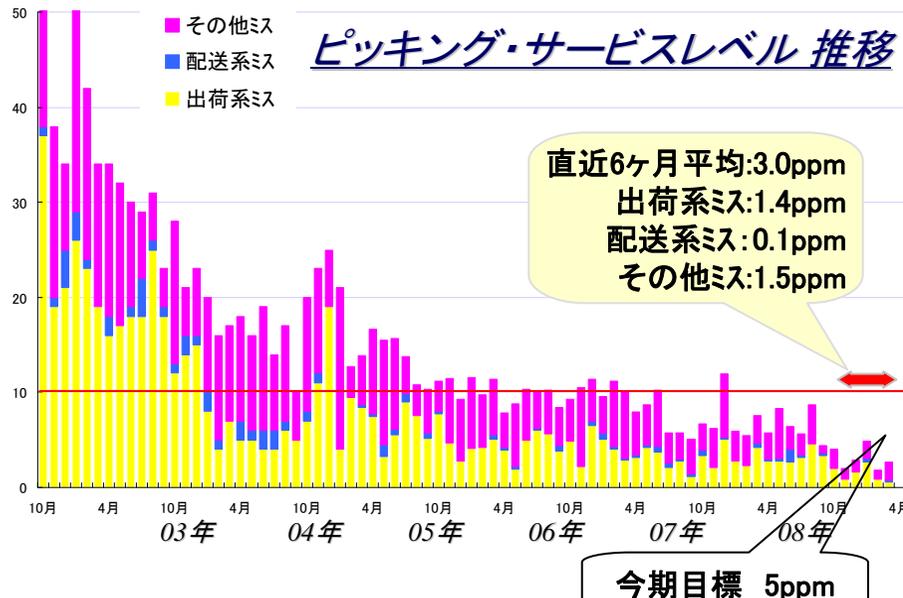
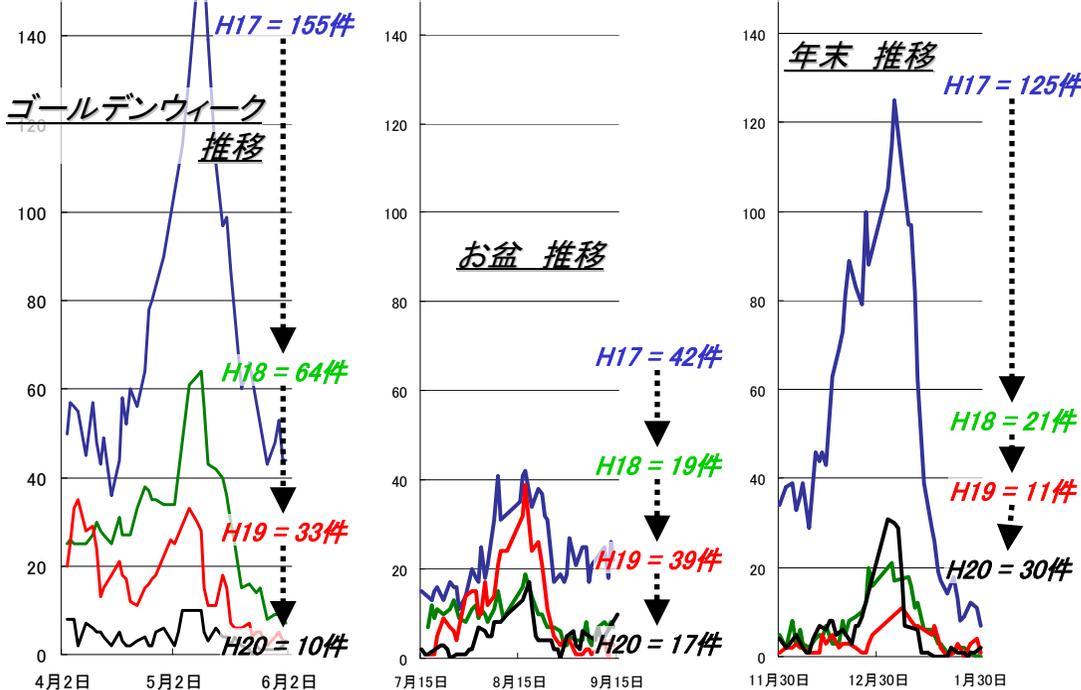
前期製品売上高比試算で ⇒ **4.0億円**の削減効果
04年3月期の製品売上高比試算で ⇒ **43.5億円**の削減効果

'09年3月期

前期製品売上高比試算で ⇒ **5.5億円**の削減効果
04年3月期の製品売上高比試算で ⇒ **51.1億円**の削減効果

☆ピッキング品質・配送品質を初めとした、サービスレベルの向上

☆SCMの精度向上により、欠品による機会ロスと後戻りコスト削減



FLB軽量化



エコトレも16年間で30%超の軽量化
ラミネート技術を活用して、現在のFLBシリーズへと進化させてきました。

| | | |
|---------|---------------------|-------|
| 汎用トレイ変遷 | 1992年 RA・LAシリーズ | 5.00g |
| | 2000年 RA・LSシリーズ | 4.50g |
| | 2003年 エコFLSシリーズ | 4.34g |
| | 2007年 エコFLBシリーズ | 3.75g |
| | 2008年 エコFLB新シリーズ | 3.52g |
| | エコFLB新々シリーズ | 3.41g |



カラートレーの先駆者として培った
ラミネート技術

PSPにおける金型・成型機
両面真空成型技術

PSP原反・フィルム
素材開発力

汎用トレイにおいても、総合技術で他社の追従を許さない

⇒ 価格も含めトータルで競争力のある製品作り

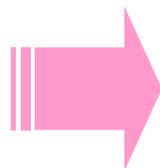
★ 素材、原反、フィルム、金型、成型、
総合技術で、更なるコスト削減
// 更なる機能アップ

◆ 新耐熱透明容器の開発

◆ 漏れにくい容器の開発

※ 原材料コスト下落

※ 素材間価格差の是正



◆ 高品質化

◆ 製品群の素材構成見直し

新たなるステージへ 製品アイテム絞込み



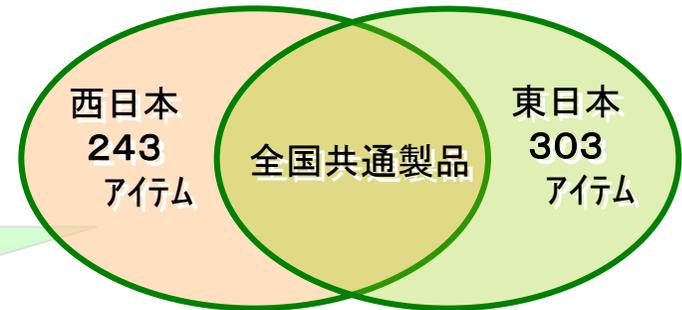
汎用トレイ集約を継続 '09年4月末進捗率95%

FLS、FKS、FSS、
LA、FA、S&S
FP、LS、FLB



汎用 280型/1,400アイテム → FLB 70型/540アイテム

エリア専用製品の設定



☆ '09年3月期下期、前期対比で既に効果が

⇒ PSP汎用品生産で、金型替え回数**42%減**

⇒ PSP製品生産で、金型替え回数が**26%減**

⇒ PSP稼働率が、**5.6ポイント改善**

新たなるステージへ サプライチェーン

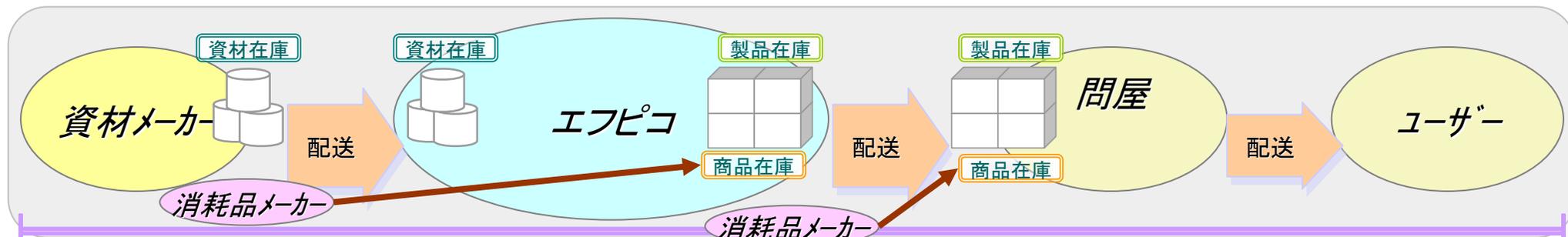


★ 包装資材業界全体でのコスト削減

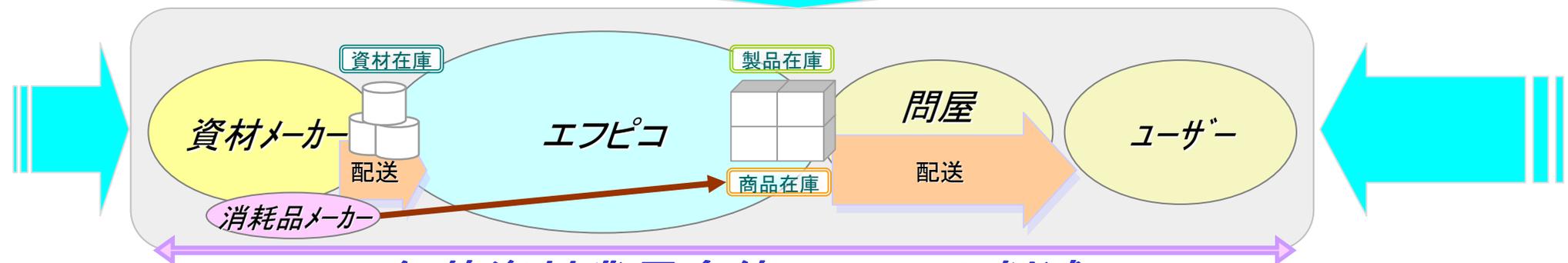
- ・受発注～決済のプロセスの見直し
- ・流通全体での在庫の圧縮

社内SCMから真のSCMへ

- // 配送網の共同利用
- // 荷役作業の合理化



サプライチェーン・トータルコスト



包装資材業界全体でのコスト削減

⇒ 弊社製品に加え消耗品全般へ展開

新たなステージへ 企業規模 拡大



包装資材業界

簡易包装容器



インスタ



アウトパック

日配品
食品加工

農産品
産地包装



消耗品・包装機器



得意分野での
更なる優位性
の確立

新規分野の攻略

業務提携・M&A

問屋コストダウン

問屋SCM拡大

物流ネットワーク & SCM

製品売上げ

商品売上げ

市場規模
2兆円

- ☆ 汎用製品でのシェア拡大
- ☆ 新規マーケットの拡大

☆ 調整から拡大へ



メーカーとしての基本 3本柱 を徹底的に追求

高品質

価格競争力

物流力

もっとも高品質な製品を

どこよりも競争力のある価格で

必要な時に確実にお届けする

企業基盤をより強固に

企業価値と競争力を高める

業績予想
2010年3月期 通期

販売計画(2010年3月期)



単位:百万円

| | 実績 | | 計画 | | | | 中間期 | | |
|------------------|----------------|--------------|----------------|--------------|----------------|---------------|---------------|--------------|---------------|
| | 09/3期 | 百分比 | 10/3期 | 百分比 | 増減 | 前年比 | 百分比 | 前年比 | |
| ト レ ー 容 器 | 28,748 | 22.4 | 29,824 | 22.4 | + 1,076 | 103.7% | 14,651 | 22.2 | 106.1% |
| 弁 当 容 器 | 67,814 | 52.9 | 68,870 | 51.8 | + 1,056 | 101.6% | 34,133 | 51.7 | 102.3% |
| そ の 他 製 品 | 1,981 | 1.5 | 1,190 | 0.9 | △ 791 | 60.0% | 610 | 0.9 | 66.3% |
| 【 製 品 】 | 98,544 | 76.8 | 99,885 | 75.1 | + 1,340 | 101.4% | 49,395 | 74.8 | 102.7% |
| 包 装 資 材 | 17,874 | 13.9 | 24,055 | 18.1 | + 6,180 | 134.6% | 12,155 | 18.4 | 132.2% |
| そ の 他 商 品 | 11,824 | 9.2 | 9,060 | 6.8 | △ 2,764 | 76.6% | 4,450 | 6.7 | 62.2% |
| 【 商 品 】 | 29,699 | 23.2 | 33,115 | 24.9 | + 3,415 | 111.5% | 16,605 | 25.2 | 101.6% |
| 【 売 上 高 】 | 128,244 | 100.0 | 133,000 | 100.0 | + 4,755 | 103.7% | 66,000 | 100.0 | 102.4% |

- ・製品出荷枚数 前年比104%伸長を見込む
 - ・お客様のニーズを先取りした新デザイン、新機能製品の上市
 - ・汎用製品でのシェア拡大、新規マーケットの拡大
- * 原材料の値下がりには製品価格へ還元し、適正価格での販売

決算計画概要(2010年3月期)



単位:百万円

| | 実績 | | 計画 | | | | 中間期 | | |
|---------|---------|-------|---------|-------|---------|--------|--------|-------|--------|
| | 09/3期 | 百分比 | 10/3期 | 百分比 | 増減 | 前年比 | 中間期 | 百分比 | 前年比 |
| 【純売上高】 | 128,244 | 100.0 | 133,000 | 100.0 | + 4,755 | 103.7% | 66,000 | 100.0 | 102.4% |
| 製品売上高 | 98,544 | 76.8 | 99,885 | 75.1 | + 1,340 | 101.4% | 49,395 | 74.8 | 102.7% |
| 商品売上高 | 29,699 | 23.2 | 33,115 | 24.9 | + 3,415 | 111.5% | 16,605 | 25.2 | 101.6% |
| 【営業利益】 | 9,190 | 7.2 | 10,720 | 8.1 | + 1,529 | 116.6% | 5,170 | 7.8 | 138.8% |
| 【経常利益】 | 9,298 | 7.3 | 10,800 | 8.1 | + 1,501 | 116.1% | 5,200 | 7.9 | 132.6% |
| 【税引前利益】 | 8,832 | 6.9 | 10,300 | 7.7 | + 1,467 | 116.6% | 5,000 | 7.6 | 131.5% |
| 【当期利益】 | 5,302 | 4.1 | 6,140 | 4.6 | + 837 | 115.8% | 2,980 | 4.5 | 128.2% |

販売面: 品質に対する要求の高まり、中食市場の需要拡大、外食から中食・内食へのシフトなど、食環境の変化を先取りし、お客様のニーズに即した製品開発を行い、容器を通じて売り場の差別化を図る

技術面: 最新鋭の設備導入と更新を行い、素材の薄肉化、製品の軽量化、新機能開発、新素材開発など、技術革新を推し進める

生産面: 生産性および品質の向上に取り組み、需要拡大に対応した生産能力の拡大と生産拠点の最適化

物流面: SCMを核に、全国を網羅する物流システムを最大限活用し、より高い次元で合理化された物流サービスを提供

環境面: 発泡スチロール製食品用トレーの自主的な回収に加え、新たに展開した透明容器の自主的な回収を加速し、さらなる循環型社会の形成に努める

設備投資および研究開発費計画(2010年3月期)



単位:百万円

| | | 実績 09/3期 | 計画 10/3期 | | | 中間期 | 前年比 |
|----------|--------|-------------|-------------|---------|--------|-------|--------|
| | | | | 増減 | 前年比 | | 前年比 |
| 設備投資 | 有形固定資産 | 8,249 | 10,250 | + 2,001 | 124.3% | 3,400 | 66.1% |
| | 内、土地 | 1,485 | 600 | △ 885 | | 600 | |
| | 無形固定資産 | 841 | 450 | △ 391 | 53.5% | 260 | 57.1% |
| 減価償却費 | | 8,467 | 8,660 | + 193 | 102.3% | 4,120 | |
| 旧基準減価償却費 | | 4,785 | 5,320 | + 535 | 111.2% | 2,400 | 104.8% |
| 研究開発費 | | 965 | 1,000 | + 35 | 103.6% | 495 | 101.6% |

主な設備投資

- ◆ 福山新工場 2,220百万円
- ◆ 金型 1,662百万円
- ◆ 福山新ピッキングセンター 2,140百万円
- ◆ 中部ピッキングセンター用地 600百万円
- ◆ IT投資 603百万円

添付資料

素材別 製品販売状況



設備投資と研究開発



成長への 戦略投資

| | |
|--------------------------|-----|
| 関東生産拠点の再編 耐熱発泡製品需要の拡大 | 38億 |
| APETの市場拡大 | 53億 |
| 中部生産拠点の拡充 | 33億 |
| 物流機能の拡充 | 15億 |
| リサイクル工場の整備 | 13億 |
| 生産拠点の再編 情報化基盤強化 | |
| 福山本社事務所 | 13億 |



| 設備投資 | 有形 | '03年3月期 | '04年3月期 | '05年3月期 | '06年3月期 | '07年3月期 | '08年3月期 | '09年3月期 | '10年3月期 計画 |
|------|-------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|------------|
| | 無形 | 6,138 | 4,248 | 2,621 | 2,156 | 9,523 | 10,655 | 8,249 | 10,250 |
| 内金型 | 958 | 789 | 120 | 239 | 362 | 254 | 841 | 450 | |
| | 780 | 460 | 436 | 600 | 771 | 609 | 618 | 1,662 | |
| | | | | | リース調達金型 | 1,581 | 1,274 | 0 | |
| 減価償却 | 3,339 | 4,201 | 4,134 | 3,965 | 4,194 | 4,742 | 8,467 | 8,660 | |
| | | | | | | 旧基準減価償却 | 4,785 | 5,320 | |
| 研究開発 | 654 | 628 | 689 | 751 | 895 | 913 | 965 | 1,000 | |

単位: 百万円



中期経営計画 經常利益増減要因



'07年3月期 実績

'08年3月期 実績

'09年3月期 計画

經常利益 66.5億

81.2億

64.5億

88.9億+4億

經常利益 増減

+14.7億

△16.7億

+24.5億 +4億

上期+11.1億、下期+3.6億

上期△11.3億、下期△5.4億

上期3.2億円+4億円、下期21.3億円

社内合理化

25.3億

20.5億

32億

上期14.6億、下期10.7億

上期7.5億、下期13.0億

上期8.3億、下期23.7億

生産改善

8.7億

3億

2.5億

上期4.9億、下期3.8億

上期2億、下期1億

上期0.5億、下期2.0億

物流改善

8億

5.7億

5億

上期4.5億、下期3.5億

上期2.5億、下期3.2億

上期1.8億、下期3.2億

素材切替、超軽量化
薄肉・軽量化

8.6億

11.8億

24.5億

上期5.2億、下期3.4億

上期3億、下期8.8億

上期6.0億、下期18.5億

販売面

9.8億

12億

41億+4億

上期2.4億、下期7.4億

上期2億、下期10億

上期14.5億+4億、下期26.5

売上増加・ミックス改善

5.8億

3億

3億+4億

上期2.4億、下期3.4億

上期2.0億、下期1.0億

上期0.5億+4億、下期2.5億

製品値上

4億

9億

15億+23億

陥没価格は正

上期0億、下期4億

上期0億、下期9億

上期11億+3億、下期4億+20億

原料価格上昇

△13億

△39.5億

△14億+23億

上期△1億、下期△12億

上期△19億、下期△20.5億

上期△11億+3億、下期△3億+20億

6,7,8次原料価格上昇

△13億

△23億

上期△1億、下期△12億

上期△17億、下期△6億

9次原料価格上昇、副資材価格上昇

△16.5億

△14億

上期△2億、下期△14.5億

上期△11億、下期△3億

10・11次原料価格上昇、副資材価格上昇

△23億

上期△3億、下期△20億

固定費増加、等

△7.3億

△9.8億

△7.6億+△4億

上期△4.8億、下期△2.4億

上期△1.9億、下期△7.9億

上期△5.7億、下期△1.9億+△4億

プラス要因

マイナス要因



過去半年間のTV放映、雑誌・新聞掲載履歴



| | 年月日 | 媒体 | 番組名 | コーナータイトル |
|----|------------|----------|----------------|---|
| TV | 2009年2月24日 | テレビ新広島 | 「TSSスーパーニュース」 | 「不況でも元気な会社」 |
| TV | 2009年4月16日 | 広島ホームテレビ | Jステーション「地球派宣言」 | 『どこへ行くの？どうなるの？食品トレーのゆくえを探る(主婦の目線で見るエコ)』 |
| TV | 2009年4月19日 | TBS | 「がちりマンデー」 | 特集「不況でも過去最高益の会社！意外な会社が儲かってた！」 |

| | 年月日 | 媒体 | タイトル | 内容 |
|----|------------|--------|----------|-----------------------------------|
| 雑誌 | 2009年4月1日 | 広島県広報部 | 「すこぶる広島」 | 藤田広島県知事と社長小松との対談 |
| 雑誌 | 2009年4月24日 | 柴田書店 | 「デリそうざい」 | 中食需要に対応する当社グループの製品ラインナップが紹介されました。 |

| | 年月日 | 媒体 | タイトル | 内容 |
|----|-------------|---------------------|---------------------------------------|--|
| 新聞 | 2009年4月28日 | 日本経済新聞(地方経済面) | エフピコ前期 純利益最高に | 09年3月期連結純利益が前期比28%増の53億円になる見込み |
| 新聞 | 2009年4月27日 | 化学工業日報 | 流通業の食品価格破壊「包材メーカーを直撃」失われる付加価値、経営圧迫 | 最終価格の価格破壊に警戒感を示した弊社小松のコメントが取り上げられました。 |
| 新聞 | 2009年4月19日 | 日経ヴェリタス | それでも元気な会社一地道にコツコツ、強み磨く | 製品の色・形状を工夫し、製品開発力がエフピコの強みとなっていると取り上げられました |
| 新聞 | 2009年4月16日 | 化学工業日報 | エフピコ 太陽工業の包材事業買収で独占交渉権 | 連結子会社エフピコチューバが、太洋興業の包材部門事業の譲り受けに関して入札による独占交渉権を獲得 |
| 新聞 | 2009年3月24日 | 化学工業日報 | 超短波 | 当社が過去最高益を更新した理由として、社内合理化の成果が取り上げられました |
| 新聞 | 2009年3月22日 | 日経ヴェリタス | 金融危機後の時価総額増加額ランキング15位エフピコ「中食需要の拡大に期待」 | 過去最高益更新の見通し。理由は、軽量化、品目数の絞込み等地道なコスト削減努力が実った事、景気後退で外食から中食機会増との見方も注目 |
| 新聞 | 2009年3月18日 | FujiSankei Business | 外国人持ち株比率「売られぬ安心」 | 野村證券金融経済研究所は、東証1部上場企業のうち、外国人持ち株率が20%未満の企業26社について、昨年9月末と今年3月4日の株価を比較し騰落率を算出。うち21社が、東証1部全銘柄の値動きを示す東証株価指数の同時期の騰落率を上回った。 |
| 新聞 | 2009年3月13日 | 日経産業新聞 | エフピコ 食品トレー1000品削減 | 品目削減により製造・保管経費が軽減、年間10億円のコスト削減を見込む。 |
| 新聞 | 2009年3月12日 | 化学工業日報 | エフピコ アイテム数を大幅削減 | アイテムの絞り込みにより、2009年度に10億超の合理化を計画。 |
| 新聞 | 2009年3月4日 | 日経MJ | 食を支える(バル・コーポレーション 弁当向け発熱剤) | MUSU弁(電子レンジを使わず水と発熱剤で加熱する弁当容器)は、エフピコの子会社であるエフピコチューバと2008年に提携し、製造・販売を開始 |
| 新聞 | 2009年2月18日 | 化学工業日報 | エフピコ 素材転換・軽量化を加速 | 22億のコスト改善し、今期経常益を上方修正 |
| 新聞 | 2009年2月13日 | 日本経済新聞 | エフピコ 2ヶケ増で最高益 54社 | 減益・赤字企業相次ぐ中、経常利益が過去最高となる企業として取り上げられました。 |
| 新聞 | 2009年2月12日 | 化学工業日報 | エフピコ 通期業績を上方修正 | 営業利益41%増、コスト削減の徹底 |
| 新聞 | 2009年2月10日 | 山陽新聞 | エフピコ コスト削減取り組み増益 | 1株当たりの配当予想を年63円から73円に修正 |
| 新聞 | 2009年2月10日 | 中国新聞 | エフピコ 23.9%増益 | 期末配当を30円から40円へ |
| 新聞 | 2009年2月10日 | 日本経済新聞(地方経済面) | エフピコ 純利益、過去最高見通し | 期末配当を40円へ |
| 新聞 | 2009年1月19日 | 包装タイムス | エフピコ 新春互例会に700人参加 | 素材切替と製品アイテムの絞込みで合理化に加え更なる収益向上を目指す 今年は物流への投資を積極的に進める |
| 新聞 | 2009年1月11日 | 日経ヴェリタス | 「社長力」株価動かし | 日本の主要上場企業1000社を対象に、現社長就任来の株価上昇率をランキング。 102位:エフピコ小松氏「率先垂範、47年変わらず」 |
| 新聞 | 2008年11月25日 | 化学工業日報 | 素材転換と軽量化 加速 エフピコがプラ容器コスト削減策 | 2009年3月期決算において、経常利益を前期比27%増、82億500万円と過去最高予想 素材転換と軽量化による効果で13億円の増益効果を見込む |
| 新聞 | 2008年11月21日 | 日経MJ | 透明食品トレー 回収に力 | 中堅スーパー各社が相次いで食品トレーなど回収強化しており、当社と協力し透明トレー回収に乗り出している |
| 新聞 | 2008年11月17日 | 包装タイムス | エフピコ 増収増益を発表 製品値上げ、社内合理化等が奏功 | 原材料・副資材価格の上昇に見舞われたが、素材切替や軽量化、新製品投入、生産・物流面での社内合理化などの利益改善に注力し増収 |
| 新聞 | 2009年11月7日 | 日本経済新聞(地方経済面) | 選別拠点、全国に5ヶ所 エフピコ、再利用推進 | 透明容器をリサイクルするための選別拠点を全国に稼働し、障がい者を積極的に採用している |

